

積年の望みである豫土横断道路の達成に、政治力を傾注した。西條町方面の協力も、市制実施計画案の具体化とともに展びた。昭和十三年には県当局を動かして、その後実施についての踏査が繰り返され、短距離つつながら、一步一步路線は延び、地元民は目的完遂に向けて努力をつづけた。折から不幸にも、国を挙げての戦時態勢となったために、事業は停頓の止むなきに至ったのであった。

太平洋戦争も末期となり、戦況は日々不利、遂には敵軍が高知県へ上陸するということを予想しなければならぬ事態となった。西條から加茂を経由する道は、四国横断の最短軍用道路として注目され、急速に幅員三メートルのものを開設する案がたてられ、労働になれぬ一般市民も、命令を受けて多数工事に参加した。しかし終戦を迎えた時は、断続した道路が二十余キロを残したままであった。しかもできた部分も不完全なものであって、実用には程遠いものであった。

終戦の後、西條市長十河信二の強力な計画推進があり、二二年四月一七日十河市長は辞任したが、九月二五日高橋初次郎が市長に就任して前市長の方針を継ぎ、愛媛県から二五万円、高知県から一五万円と、外に受益者として、沿道に所有森林の多い大阪の中江産業株式会社から一五万円、住友林業株式会社から五万円の資金を得て運動をつづけ、西條市長高橋初次郎を会長とし、高知市長を副会長とする豫土横断道路期成同盟会を組織して具体的活動に移った。昭和二十三年（一九四八）六月一二日、愛媛県・高知県の関係者一同が海拔一、三〇〇メートルの県境桑瀬峠の上に感激の握手がかわされたのである。

昭和二十四年一〇月中旬、この道路沿線の資源調査と路線の实地測量とを行い、その調査結果と道路開設の請願書とを携行、西條市長高橋初次郎は愛媛・高知両県の知事ならびに県議会議長などとともに上京し、高知県出身の副総理林譲治などに陳情したが、国家予算の困難な折柄、このままでは敗戦後の経済九原則によって、この道路開設は不急の事業とみなされる恐れがあるという説明を受けた。これについては政府筋の意見もあって、経済上の必要を主張するためにそれまで単に豫土横断道路と称していたものを、四国中央産業、開発道路と呼ぶように改めた。これによってこの工事は道路改修五ヶ年計画に編入されることになり、G・H・Qへも報告し、昭和二十五年九月二二日から建設省技官の实地踏査があった。

昭和二十九年一月二〇日の建設省告示第一六号によって主要地方道として取上げられ、一二月一八日県道に認定せられ、三三年には従来の木橋に代る堅牢な船形橋（長九六メートル、巾六メートル、負荷荷重四〇トン）ができた。

昭和三十七年度から全国の一、二級国道追加指定の方針が定められ、その検討の結果四月二三日の道路審議会に具体案を提出して、二七日の閣議で路線政令を改正して実施に移した。これで高知を起点とし西條の加茂川左岸国道一號線に達する一〇八キロが二級国道に指定されたのである。国道指定によって既開通部分の幅員拡張なども論議せられ、瀬戸内運輸・高知県交通両社でも全路線の開通をまって旅客および貨物の輸送計画がすすめられていた。

しかるに、道路工事は遅々として進行せず、愛媛県側での停滞が多く、県境を貫く寒風山トンネルの難工事もあった。県境附近の昔の状態は、天保の西條〔藩〕誌をみると

「居民美穀を食ふ事を不得、衣も木綿をだに着るもの少く太布を服とし、粟、稗を常の糧とす（中略）郡方の書簡を持って行に、桑瀬峯五・六町迄近づきても、其番所に至る事を不得、空しく引返し雪の消えるを待事ありと……」
とある。

県境の鞍部といっても、標高一、七六五メートルの寒風山（現地では今もさむかせやまと呼ぶが、今回の道路関係者がかん

ぶ、ぎん」と読みならわした)の肩の部分をつunnelが貫通する。その延長九二四メートル、幅、高共に五・五メートルである。南北両側から掘る予定であったが、内導坑の傾斜、排水などの関係から、主として愛媛県側から掘らねばならなかった。昭和三四年一〇月二六日請負人東京の鉄道工業株式会社が工事に着手したが、会社の経営不振から、工事入夫が相ついで下山してしまい、わずか四六・八メートルを掘って、一二月二四日から工事は完全に停止する有様となり、愛媛県議会でも県当局の重大な失態として波乱を起すようなこともあったが、協議の結末は再入札を行い、鹿島建設株式会社が工事を継承した。昭和三五年度から新しく着工し、三六年三月二日先ず導坑が貫通した。トンネル中央部の破砕帯では、一日の工程僅か三〇センチというような難工事に遭遇したが、昭和三八年度に竣工、トンネル内部の電灯取付も完備、三九年(一九六四)七月一九日午前一〇時から高知県側入口で完工式が行われた。古い昔は知らないが、文野昇二が提案した建議案が愛媛県会で通過した時から数えても七十ヶ年に近い。幾多の人々の功労は永く語るべきであろう。